

2024 年 6 月 14 日

苫小牧市長
岩倉博文様

脱原発・自然エネルギーをすすめる苫小牧の会

代表 伊藤 富志男

同 佐藤 昭子

同 宮崎 有広

核のゴミに関する「文献調査報告書」の説明会に関する申し入れ(公開)

日頃の市政に対する多大なご尽力とご貢献に深甚の敬意を表します。

本年 2 月 13 日に原子力発電環境整備機構 (NUMO) が発表した、寿都郡寿都町および古宇郡神恵内村における高レベル放射性廃棄物 (核のゴミ) 最終処分場選定に関わる文献調査報告書案について、貴職に対して弊会は以下の申し入れを致しますので、お聞き届けくださるようお願い申し上げます。

現在、経済産業省の審議会作業部会などで報告書策定の審議が行われていますが、それが終わると、報告書の説明会が両町村と道内の振興局所在地で行われると聞いています。6 月 11 日の『北海道新聞』によれば、報告書は「早ければ、今夏にもまとまる」そうです。ご案内の通り、核のゴミは無害になるまで凡そ 10 万年はかかると言われ、仮にそれが地下水脈をたどって漏出するなどの事故が発生した場合には苛酷重大被害が発災します。従って、その最終処分場の選定は単にその自治体のみならず、極めて広範な地域に影響が及びます。

さて、貴職には釈迦に説法ではあり誠に失礼とは存じますが、苫小牧市は国際拠点港湾である苫小牧港と空の玄関口新千歳空港を抱え、紙・パルプの製紙関連工場や自動車部品製造工場、また石油関連工場などを有する港湾貿易・工業都市で、同時に、水揚げ日本一を連続 20 年以上誇る北寄貝や、高級魚マツカワ、毛ガニ、サーモン加工等々を中心とする漁業都市でもあります。その一方、ハスカップが自生する勇払原野や、日本初のバードサンクチュアリーでラムサール条約にも登録されているウトナイ湖、世界的にも珍しい三重式火山の樽前山を有するなど類まれな自然環境にも恵まれた地域です。

しかし、これは偏えに苫小牧市のみが恵まれているわけではなく、北海道全体が自然の恵みの大地であり、漁業は言うまでもなく、耕地面積は全国の約四分の一を占め、日本の食を支える一大農漁業地域 (食料自給率は北海道に限れば 216 %) なのです。さらには、広大な山地が産み出す林業も盛んであり、品質が高い農畜産物は北海道ブランドとして日本中に知れ渡り、また近年はワインやウィスキー、日本酒など酒造業も盛んになっています。つまり、苫小牧市の恵みは、北海道の豊かな恵みに支えられていると言っても過言ではないのです。

核のゴミの最終処分場を受け入れるか否かという問題は、岩宇地域の二つの町村に限られた問題ではなく北海道全体の未来に大きく関わる問題であり、従って、それはこの苫小牧市においても決して余所事ではないはずです。また、この件に関して鈴木直道北海道知事は、「寿都町及び神恵内村のほか道の 14 振興局ごと開催すること、開催を希望する道

内の市町村で開催すること、最終処分事業は国民的議論が必要な問題であるから全国で開催をすること」をNUMOに要請しています（道HP掲載 12月27日知事記者会見、動画 https://www.youtube.com/watch?v=CdrPPC_wlxc）。苫小牧市は勿論振興局所在地ではありませんが、人口は17万人を擁し道内4番目の都市です。この問題に関心を抱き、説明会の開催を希望する市民も大勢いるものと確信します。

そこで、改めて弊会は、貴職に対して是非苫小牧市においても文献調査報告書の説明会が開かれるようにNUMOおよび北海道に要請されるよう申し入れます。なお、本要請書は公開いたします。また、要請されたか否か、結果について別記連絡先にご通知下さるようお願い致します。

以上

連絡先：〒053-0011 苫小牧市末広町1-13-13

苫小牧地区労連気付

脱原発・自然エネルギーをすすめる苫小牧の会

事務局長 津田 孝

携帯：080-6460-0713

Eメール：tsudatch@mx32.tiki.ne.jp